

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

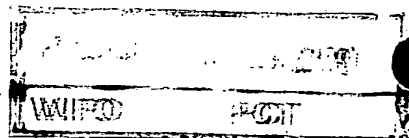
Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

THIS PAGE BLANK (USPTO)



09/926720
PCT/JP00/01538

4 日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

14.03.00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application:

1999年 6月 8日

REC'D 04 AUG 2000

出願番号
Application Number:

平成11年特許願第160830号

WIPO PCT

出願人
Applicant(s):

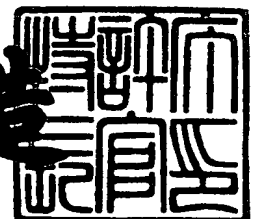
株式会社パンサーソフトウェア

PRIORITY
DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 8月18日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3027968

【書類名】 特許願

【整理番号】 PP990025

【提出日】 平成11年 6月 8日

【あて先】 特許庁 長官殿

【国際特許分類】 G06F 15/00

【請求項の数】 11

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区上大崎 3-10-59 パレロワイヤル目
黒 101号

 【氏名】 佐藤 健次

【特許出願人】

 【住所又は居所】 東京都品川区上大崎 3-10-59 パレロワイヤル目
黒 101号

 【氏名又は名称】 佐藤 健次

【代理人】

 【識別番号】 100095371

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 上村 輝之

【選任した代理人】

 【識別番号】 100089277

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 宮川 長夫

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 043557

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

特平 11-160830

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置、ソフトウェアの実行制御方法、及びソフトウェア実行判別器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ソフトウェアを実行させるか否かのソフトウェア実行判別機能を備えたコンピュータ装置において、

前記ソフトウェアを実行させるか否かの判断材料となる設定情報が格納された設定情報格納手段と、

前記設定情報格納手段に格納された前記設定情報に基づいて、前記ソフトウェアの実行の可否を判別するソフトウェア実行判別手段と、

前記ソフトウェア実行判別手段が実行可と判別したときにのみ、前記ソフトウェアを実行するソフトウェア実行手段と

を備えたソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置。

【請求項 2】 前記設定情報は、各利用者毎に設定された利用者固有の情報を含み、

それにより、同じソフトウェアを同じ状況下で実行しようとした場合でも利用者によって前記ソフトウェア実行判別手段の判別結果が異なる

請求項 1 記載のソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置。

【請求項 3】 前記設定情報は、利用者の年齢を決定するための年齢関連情報を含み、

前記ソフトウェア実行判別手段は、年齢制限のあるソフトウェアを実行しようとするとき、前記年齢関連情報に基づいて、利用者の年齢が実行制限を受けない場合に前記ソフトウェアの実行が可であると判別する、

請求項 1 記載のソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置。

【請求項 4】 前記設定情報は、実行時間を制限するための実行時間関連情報を含み、

前記ソフトウェア実行判別手段は、ソフトウェアを実行しようとするとき、前記実行時間関連情報に基づいて、現在の時間的な状態が実行制限を受けない場合に前記ソフトウェアの実行が可であると判別する、

請求項 1 記載のソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置。

【請求項 5】 前記ソフトウェア実行判別手段が、前記ソフトウェアの実行が無条件で可か、条件付で可か、不可かを判別し、

前記ソフトウェア実行判別手段が条件付で可と判別したときには、前記ソフトウェア実行判別手段が条件付で前記ソフトウェアを実行する

請求項 1 記載のソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置。

【請求項 6】 前記設定情報格納手段が、前記コンピュータ装置に着脱自在又は通信接続自在なソフトウェア実行判別器に含まれている

請求項 1 記載のソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置。

【請求項 7】 前記ソフトウェア実行判別手段が、前記ソフトウェア実行判別器が前記コンピュータ装置に装着され又は通信接続しているか否かの状態にも基づいて、ソフトウェアの実行可否を判別する

請求項 6 記載のソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置。

【請求項 8】 コンピュータ装置におけるソフトウェアの実行を制御する方法において、

予め設定されている、前記ソフトウェアを実行させるか否かの判断材料となる設定情報にアクセスするステップと、

前記設定情報に基づいて、前記ソフトウェアの実行の可否を判別するステップと、

実行可と判別したときにのみ、前記ソフトウェアを実行するステップと

を有するソフトウェア実行制御方法。

【請求項 9】 前記設定情報は、各利用者毎に設定された利用者固有の情報を含み、

それにより、同じソフトウェアを同じ状況下で実行しようとした場合でも利用者によって前記ソフトウェア実行可否の判別結果が異なる

請求項 8 記載のソフトウェア実行制御方法。

【請求項 10】 コンピュータ装置に着脱自在又は通信接続自在であり、

前記コンピュータ装置に前記ソフトウェアを実行させるか否かの判断材料となる設定情報を格納した設定情報格納手段を備え、

前記コンピュータ装置に装着された又は通信接続した状態において、前記コンピュータ装置に前記設定情報又はこの設定情報に基づくソフトウェア実行制御のための情報を提供することができるソフトウェア実行判別器。

【請求項 11】 前記設定情報は、各利用者毎に設定された利用者固有の情報を含み、

それにより、前記コンピュータが同じソフトウェアを同じ状況下で実行しようとした場合でも、利用者によってソフトウェアの実行の可否の結果が異なる請求項 10 記載のソフトウェア実行判別器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ソフトウェアを実行させるか否かのソフトウェア実行判別機能を備えたコンピュータ装置に関し、例えば、ゲーム用ソフトウェアの実行の可否を判別する機能をもった家庭用テレビゲーム機などに好適なコンピュータ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

コンピュータ装置でソフトウェアを動作させる場合、対応するハードウェアの動作条件に合致したソフトウェアでなければならない。例えば、家庭用テレビゲーム機（以下、ゲーム機と云う）でゲーム用ソフトウェア（以下、ゲームソフトと云う）を実行するためには、そのゲームソフトは、広くコンピュータ上で実行されるプログラム全体に亘る一般条件と共に、そのゲーム機のハードウェアの動作条件を守って作られたものでなければならない。従来、ゲーム機は、挿入されるゲームソフトの形状や形式から、そのゲームソフトが対応するゲーム機の動作条件を守って作られたものであるかどうかを判別する機能を備えている。

【0003】

図 1 は、従来のゲーム機が行うゲームソフトの実行判別の処理の流れを示すフローチャートである。すなわち、ゲーム機にゲームソフトを挿入すると（S1）、IPL（Initial Program Loader）を起動した後、ゲーム機がそのゲームソフト

トに対してアクセスを行い（S2）、挿入されたゲームソフトがゲーム機に対応しているか否かの判別を行う（S3）。対応していれば（S3, Y）、そのゲームソフトの実行を行い（S4）、対応していなければ（S3, N）、ゲームソフトの実行停止などの処理を行い（S5）、ゲームソフトを起動しない（S6）。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、従来のゲーム機のゲームソフトを実行させるか否かの判別機能は、使用するゲームソフトが、対応するゲーム機の動作条件に合致しているか否かを判別するための機能であり、利用者がそのゲームソフトを動作させてよいものかどうかを判定する機能は備えていない。すなわち、ゲームソフトの利用者に対して、そのゲームが適切なものか否かの判断を行うことができず、販売時の規制や保護者の監視などの人為的な手段によって、利用者に対応したゲームソフトの使用制限が行われている。

【0005】

例えば、人為的手段によらなければ、性的、暴力的、醜悪的な、青少年の育成に問題のある表現が含まれるゲームなど、倫理的に問題のあるゲームの実行を、利用者ごとに制限することができなかったり、深夜などの時間帯に、適当でない利用者にゲーム実行を制限することができなかったり、長時間に亘ってテレビ画面を見つめない方がよい利用者に、ゲーム実行の時間制限を行うことができないなどの問題がある。

【0006】

このような問題は、ゲーム機だけに限らず、一般のコンピュータでも同様である。

【0007】

本発明はこのような事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、利用者にとって適切なソフトウェアのみを実行させることのできるソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明に従えばコンピュータ装置は、ソフトウェアを実行させるか否かの判断材料となる設定情報が格納された設定情報格納手段と、設定情報格納手段に格納された設定情報に基づいてソフトウェアの実行の可否を判別するソフトウェア実行判別手段と、ソフトウェア実行判別手段が実行可と判別したときにのみ、ソフトウェアを実行するソフトウェア実行手段とを備える。

【0009】

好適な実施形態では、設定情報は、各利用者毎に設定された利用者固有の情報を含み、それにより、同じソフトウェアを同じ状況下で実行しようとした場合でも利用者によってソフトウェア実行判別手段の判別結果が異なる。

【0010】

好適な実施形態では、設定情報は、利用者の年齢を決定するための年齢関連情報（例えば、生年月日や、精神年齢を加味するオフセット値など）を含み、ソフトウェア実行判別手段は、年齢制限のあるソフトウェアを実行しようとするとき、その年齢関連情報に基づいて、利用者の年齢が実行制限を受けない場合にソフトウェアの実行が可であると判別する。

【0011】

好適な実施形態では、設定情報は、実行時間を制限するための実行時間関連情報（例えば、実行禁止時間帯、1日の積算実行時間の制限値、連続実行時間の制限値など）を含み、ソフトウェア実行判別手段は、ソフトウェアを実行しようとするとき、その実行時間関連情報に基づいて、現在の時間的な状態（例えば、現在時刻、現在までの1日の積算実行時間、現在までの連続実行時間など）が実行制限を受けない場合にソフトウェアの実行が可であると判別する。

【0012】

好適な実施形態では、ソフトウェア実行判別手段が、ソフトウェアの実行の単純な可否だけでなく、条件付で可かどうかも判別し、条件付で可と判別したときには、その条件に沿うようにソフトウェアを実行する（例えば、実行時間に制限を課して実行する、利用者の年齢に適合したバージョンを実行するなど）。

【0013】

好適な実施形態では、コンピュータ装置に着脱自在又は通信接続自在なソフト

ウェア実行判別器があり、このソフトウェア実行判別器に前記設定情報が格納されている。全く無条件で実行してもよいようなソフトウェアは別として、ソフトウェア実行判別器をコンピュータ装置に装着又は通信接続しない限り、ソフトウェアを実行することができない。或いは、全てのソフトウェアの実行には、ソフトウェア実行判別器の装着を必要とするようにすることもできる。

【0014】

ソフトウェア実行判別器は、ソフトウェアのコピー防止にも利用できる。例えば、ソフトウェアの使用許諾を受けた者だけに対して、そのソフトウェアの実行時に必ずコンピュータ装置に装着又は通信接続しなければならないソフトウェア実行判別器を与える。これにより、そのソフトウェア実行判別器を持たない者は、そのソフトウェアが実行できない。

【0015】

【発明の実施の形態】

以下、図面を用いて、本発明の実施の形態を詳細に説明する。なお、この実施形態はゲームソフトウェアを実行するゲーム機を対象にしているが、これは典型的な一例にすぎず、本発明はどのような種類のソフトウェアを実行するコンピュータについても、広く適用できるものである。

【0016】

図2は、本発明の一実施形態にかかるソフトウェア実行判別機能付きゲーム機の外観を示す斜視図である。同図に示すように、ゲーム機1はゲームソフトウェアを外部記憶装置からロードするための記憶装置ドライブ、例えばCD-ROMドライブ3を有し、このドライブ3に装着されたゲーム用CD-ROMからゲームソフトを読み込む。勿論、CD-ROM以外のタイプの記憶装置から或いは通信ネットワークからゲーム機1にゲームソフトをロードするようにしてもよい。また、このゲーム機1にはソフトウェア実行判別器5を装着することができる。本実施形態では、ソフトウェア実行判別器5は、書換可能な不揮発性半導体メモリとゲーム機1に対するインタフェースとを含み、半導体メモリにソフトウェア実行判別のための諸設定情報が格納されている。ソフトウェア実行判別器5とゲーム機1との接続方法には、(イ)ソフトウェア実行判別器5をゲーム機1に設

けられた接続端子に結合する、(ロ) 両者を通信用ケーブルを用いて接続する、
(ハ) 両者の間をリモコン信号のように無線チャンネルを介して接続する、などの方法がある。

【 0 0 1 7 】

ゲーム機 1 は、ゲームソフトを実行しようとする場合、ソフトウェア実行判別器 5 が装着されているか否か、及び装着されている場合には、ソフトウェア実行判別器 5 に記録されている設定情報に基づき、ゲームソフトを実行するか否かを判断する。このゲーム実行判断及びゲームソフトの起動などの制御は、ゲーム機 1 本体に内蔵された ROM に格納された OS 又は BIOS のようなファームウェアが行なう。

【 0 0 1 8 】

ソフトウェア実行判別器 5 に格納されている設定情報には次の (1) ～ (6) のようなものがある。これらの設定情報は、条件付で変更が可能である。

【 0 0 1 9 】

(1) 現在日時。すなわち、利用者によって変更することのできない現時点の日時を示す絶対時間（この機能は、ソフトウェア実行判別器 5 に内蔵させておく形式でも、また、ゲーム機 1 が計算してそれをソフトウェア実行判別器 5 が随時認識する形式でも構わない）。このような現在日時は、例えば、年齢制限付きのゲームソフトを起動させるのに、利用者の生年月日と現在日時から利用者の年齢を求めるために必要である。

【 0 0 2 0 】

(2) ゲームソフトを使用する利用者の生年月日。

【 0 0 2 1 】

(3) 1 日のゲームソフトの使用制限時間。

【 0 0 2 2 】

(4) ゲームソフトの連続使用制限時間。

【 0 0 2 3 】

(5) ゲームソフトの使用禁止時間帯。

【 0 0 2 4 】

(6) ゲームソフトを使用する利用者の精神的成熟度。これは、利用者が精神年齢的に実年齢に達していないと判断した場合に設定する数値で、設定された年齢分だけゲームソフトの対象年齢を上げるためのオフセット値である。例えば、実年齢が20歳でも、精神的には4歳遅れていると判断されている人の場合、この数値を4に設定する。すると、この人は22歳になるまで18歳未満禁止に区分されるゲームを行うことができなくなる。但し、このマイナス値の設定、例えば、-2を設定して、16歳の人を18歳未満禁止に区分されるゲームを行うと云う設定はできないようにする。従ってプラスの数値のみを設定できるようにする。このような機能は、単純に年齢によって区分することのできない人への対処を可能にする。

【0025】

上記の設定情報は下記の条件によって可変することができる。

【0026】

すなわち、(1)～(6)の設定情報は、ソフトウェア実行判別器5の販売者が任意に設定変更を行うことができる。

【0027】

(2)の設定情報は、ソフトウェア実行判別器5の購買者が1回だけ設定を行うことができる。

【0028】

(3)～(6)の設定情報は、ソフトウェア実行判別器5の購買者が任意に設定変更を行うことができる。

【0029】

(1)～(6)の設定情報は、ゲーム機1及びゲームソフトが(つまり、ゲームソフトの指令によってゲーム機1が)任意にこれを参照することができるが、ゲームソフトが、ソフトウェア実行判別器5の購買者の許可なく(2)～(6)の設定情報を変更することはできない。

【0030】

(2)～(6)の設定情報をソフトウェア実行判別器5の購買者が変更する場合に、ゲーム機1および変更機能を持つプログラムを使用してもよい。また、そ

のプログラムはゲームソフト上からソフトウェア実行判別器 5 の購買者が制御できるようにしてもよい。

【0031】

図 3 は、ゲーム機 1 がゲームソフトを起動し実行するときの処理の流れを示す。

【0032】

まず、ゲーム機 1 にゲームソフトの CD-ROM を挿入すると (S11)、ゲーム機 1 は IPL を起動してそのゲームソフトにアクセスし (S12)、そのゲームソフトがゲーム機 1 に対応しているか否かの判別を行う (S13)。ここで、もしゲームソフトがゲーム機 1 に対応していなければ (S13, N)、従来技術と同様に、ゲームソフトの実行停止のための処理を行い (S14)、ゲームソフトを起動しない (S15)。

【0033】

一方、ステップ S13 において、ゲームソフトがゲーム機 1 に対応していれば (S13, Y)、そのゲームソフトを実行するために、ソフトウェア実行判別器 5 が必要である否かの判断を行う (S16)。ここで、ソフトウェア実行判別器 5 の必要はなく、無条件に実行してよいゲームソフトであれば (S16, N)、直ちにそのゲームソフトの実行を開始する (S24)。

【0034】

また、ステップ S16 において、ソフトウェア実行判別器 5 による実行の可否の判定を行う必要のあるゲームソフトの場合は (S16, Y)、ゲーム機 1 はソフトウェア実行判別器 5 にアクセスする (S17)。ここで、ソフトウェア実行判別器 5 がゲーム機 1 に接続されているか否かの判断が行われ (S18)、もし、ソフトウェア実行判別器 5 がゲーム機 1 に接続されていないければ (S18, N)、そのゲームソフトの実行停止のための処理を行い (S19)、そのゲームソフトを起動しない (S20)。

【0035】

一方、ステップ S18 において、ソフトウェア実行判別器 5 がゲーム機 1 に接続されていれば (S18, Y)、ゲーム機 1 は、ソフトウェア実行判別器 5 にか

ら設定情報を取得する。すなわち、前述の（１）現在日時、（２）利用者の生年月日、（３）ゲームソフトの使用制限時間、（４）ゲームソフトの連続使用制限時間、（５）ゲームソフトの使用禁止時間帯、及び（６）利用者の精神的成熟度などの設定情報を取得する（S21）。

【0036】

そして、ゲーム機1は、利用者ごとにソフトウェア実行判別器5に入力されている前記（１）～（６）の設定情報から、プレイを許可できるか否かの判断を行う（S22）。ゲームソフトにプログラムされている（又は、ゲームソフトのCD-ROMやカセットなどに機械的又は電気磁気的方法で設定されている）例えば、ソフトウェア実行判別器5からの取得情報から計算した利用者の年齢と、ゲームソフトにプログラムされている（又は、ゲームソフトのCD-ROMやカセットなどに機械的又は電気磁気的方法で設定されている）ゲーム対象年齢との比較や、設定されているゲーム禁止日時とゲームを行おうとしている現在日時との比較や、設定されたプレイ制限時間と現在までのプレイ継続時間との比較照合などを行なう。

【0037】

そして、ゲーム機1は、これらの設定情報についての判断処理の結果に基づき、ゲームソフトを単純に実行しても問題ないか否か判定し（S23）、ゲームソフトを実行しても問題がなければ（S23, Y）、そのゲームソフト5を実行を開始するか、または、実行中のものであればその実行を継続する（S24）。

【0038】

一方、ステップS23において、ゲームソフトの単純な実行に問題があるならば（S23, N）、条件付きならばゲームソフトを実行してもよいか否かの判定が行われる（S25）。その結果、条件付きならばゲームソフトの実行を行ってもよければ（S25, Y）、そのゲームソフトを、定められた条件のもとで実行する。（S26）。

【0039】

ここで、条件付きのゲームソフトの実行とは、次にあげる①～③のうちの1つ又は全ての条件を設定してゲームソフトを実行する場合を云う。

【0040】

- ① 画面上にメッセージを表示して警告を発するか、音声などで警告を発する。

【0041】

- ② ゲームソフトの動作に関して時間的制限を設ける。

【0042】

- ③ ゲームソフトの内容に問題のある部分を変更した別のバージョンを実行する。変更は部分的に行ってもゲーム内容全体を変更してもよい。

【0043】

尚、条件付きゲームソフトの実行処理については、図4に示すフローチャートで後に詳細に説明する。

【0044】

一方、ステップS25において、条件付きでもゲームソフトを実行させることができなければ(S25, N)、そのゲームソフトの実行停止のための処理を行い(S27)、そのゲームソフトを起動しない、又は実行中であれば実行を終了する(S28)。

【0045】

次に、上記ステップS26の条件付きでゲームソフトを実行する場合の処理の流れを、図4のフローチャートを参照して説明する。

【0046】

図4に示すように、条件付きゲーム実行処理が開始すると(S31)、まず、ゲームソフトを実行してもよい時間帯かどうかの判定が行われる(S32)。もし、現在時刻がソフトウェア実行判別器5から取得した使用禁止時間帯内であれば(S32, N)、そのゲームソフトの実行停止のための処理を行い(S33)、ゲームソフトを起動させない(S34)。

【0047】

ステップS32で、ゲームソフトを実行する時間帯に問題がなければ(S32, Y)、現在までの当日のゲーム実行時間の積算値がソフトウェア実行判別器5から取得した当日の制限時間以内かどうかの判定を行い(S35)、当日の制限

時間を超えていれば（S35, N）、そのゲームソフトの実行停止のための処理を行い（S33）、ゲームソフトを起動させない（S34）。

【0048】

ステップS35で、ゲームソフトの実行継続時間がまだ当日の制限時間を超えていなければ（S35, Y）、次に、そのゲームソフトの対象年齢に問題はないかの判定を行い（S36）、対象年齢に問題があれば（S36, Y）、そのゲームソフトに内容を変更した別のバージョンが入っているかどうかの判定を行い（S37）、年齢制限を考慮した別のバージョンが入っていないければ（S37, N）、そのゲームソフトの実行停止のための処理を行い（S33）、ゲームソフトを起動させない（S34）。

【0049】

また、ステップS37で、年齢制限を考慮した別のバージョンが入っていれば（S37, Y）、画面に警告文を表示する必要があるか否かの判定を行う（S38）。一方、ステップS36で、ゲームソフトの年齢制限に問題がない場合も（S36, N）、画面に警告文を表示する必要があるか否かの判定を行う（S38）。

【0050】

ステップS38で、警告文を表示する必要がある場合は（S38, Y）、画面に警告文を表示しながら（S39）、ゲームソフトの通常版または別のバージョンを実行する（S40）。尚、ステップS38で警告文を表示する必要が無い場合は（S38, N）、警告文を表示しないまま、ゲームソフトの通常版または別のバージョンを実行する（S40）。

【0051】

さらに、ゲームソフトを実行中も、実行時間帯及び当日の制限時間に問題はないか否かを判定を随時に行い（S41）、問題なければ（S41, Y）、ゲームソフトの実行をそのまま続ける（S42）。ステップS41で、ゲームソフトを実行する時間帯及び当日の制限時間に問題が発生すれば（S41, N）、そのゲームソフトを停止して、ゲームを終了させる（S43）。

【0052】

以上の処理により、ソフトウェアの実行制限を確実且つ容易に行うことが可能となり、購買者は安心してゲーム機やゲームソフトを購入してプレイすることができる。

【0053】

以上述べた実施の形態は本発明を説明するための一例であり、本発明は、上記の実施の形態に限定されるものではなく、発明の要旨の範囲で種々の変形が可能である。例えば、上記の実施の形態は、テレビゲーム機でゲームソフトを動作させる場合の、倫理上や健康上などによる各種制限を行う場合について述べたが、テレビゲーム機に限らず、パーソナルコンピュータなどの汎用コンピュータにも同様のソフトウェア実行判定機能を備えて、健康上の理由から長時間の実行ができないようにしたり、会社などで勤務時間中にゲームなどの勤務に関係ないソフトが実行できないようにするなどに応用することもできる。

【0054】

また、上記の実施の形態では、ソフトウェア実行判別器に設定情報を記録して、ゲーム機に実行可否の判定機能を持たせる場合について説明したが、ソフトウェア実行判別器にメモリだけでなくCPUなどを搭載して実行判定処理を行うインテリジェントな機能を持たせることもできる。なお、本書中に於いてはソフトウェア実行判別器に複数の機能を持たせ、多用途に使用可能としてあるが、ソフトウェア実行判別器は年齢制限を実行させる機能のみといった、機能に限定させて画一的な使用方法に留めることもむろん可能である。また、本案の主眼のひとつである年齢制限判定を行う機能に関しては、最優先で内包させる方が望ましい。

【0055】

尚、構造上の構成としては、家庭用テレビゲーム機にソフトウェア実行判別器を内蔵してもよいし、家庭用テレビゲーム機にソフトウェア実行判別器と同等の機能を持たせてもよい。

【0056】

更に、ソフトウェア実行判別器の設定情報をゲームソフトが参照することができるので、演出効果の情報として活用し、より一層、ゲームを楽しいものにすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

従来のゲーム機が行うゲームソフトの実行判別の処理の流れを示すフローチャートである。

【図 2】

本発明の一実施形態にかかるソフトウェア実行判別機能付きゲーム機の外観を示す斜視図である。

【図 3】

本発明の一実施形態におけるソフトウェア実行判別機能付きゲーム機の処理の流れを示すフローチャートである。

【図 4】

図 4 のステップ S 2 6 で、条件付きでゲームソフトを実行させる場合の処理の流れを示すフローチャートである。

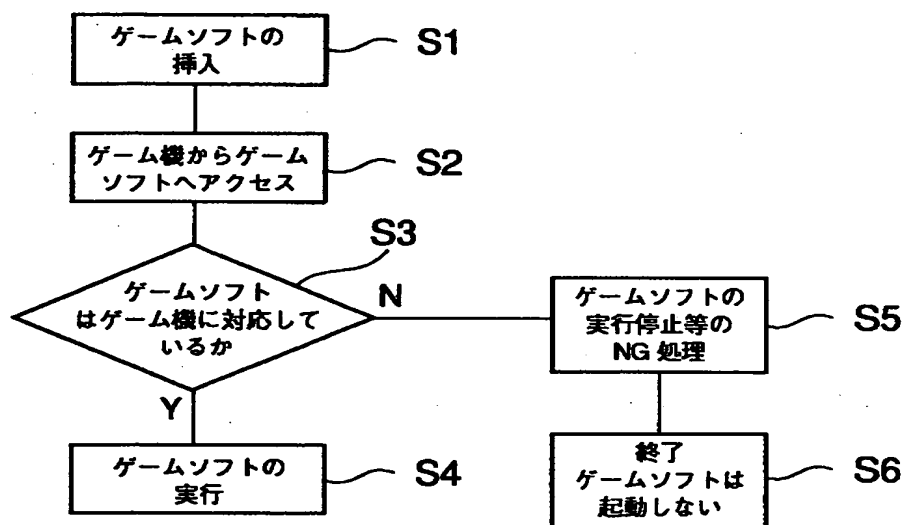
【符号の説明】

- 1 家庭用テレビゲーム機（ゲーム機）
- 3 CD-ROMドライブ
- 5 ソフトウェア実行判別器
- 7 コントローラ

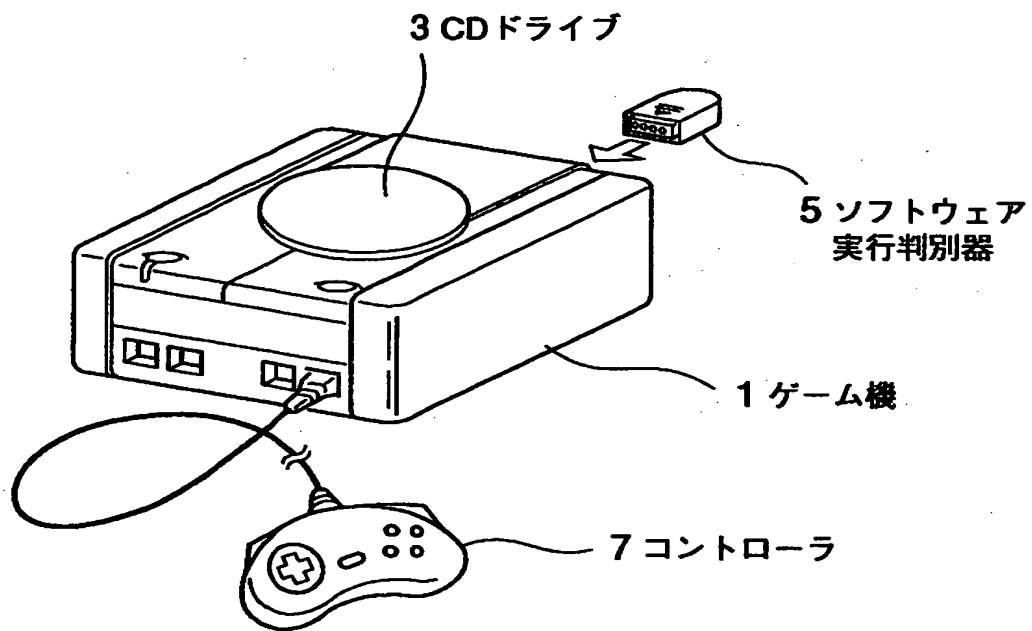
【書類名】

図面

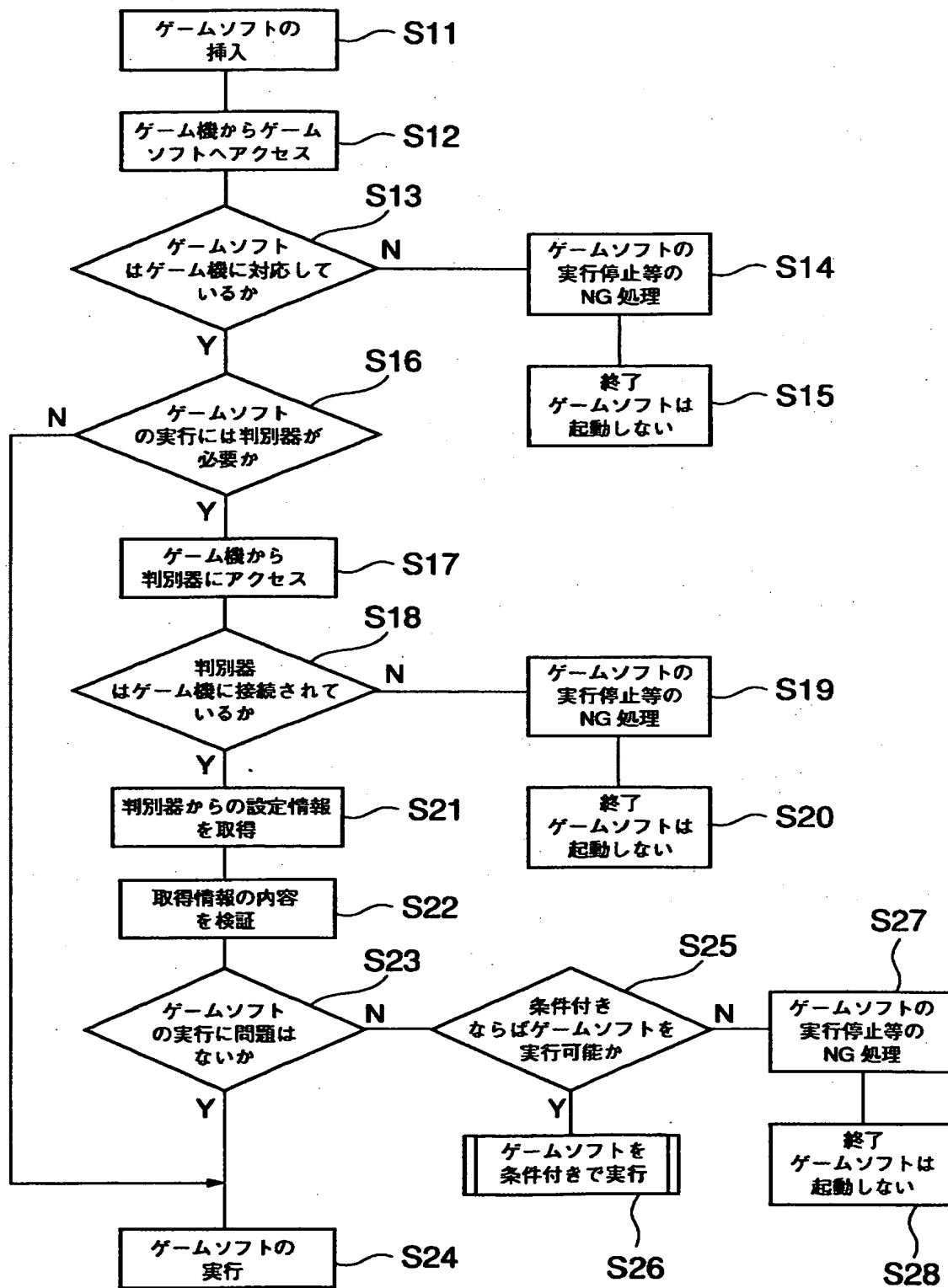
【図 1】



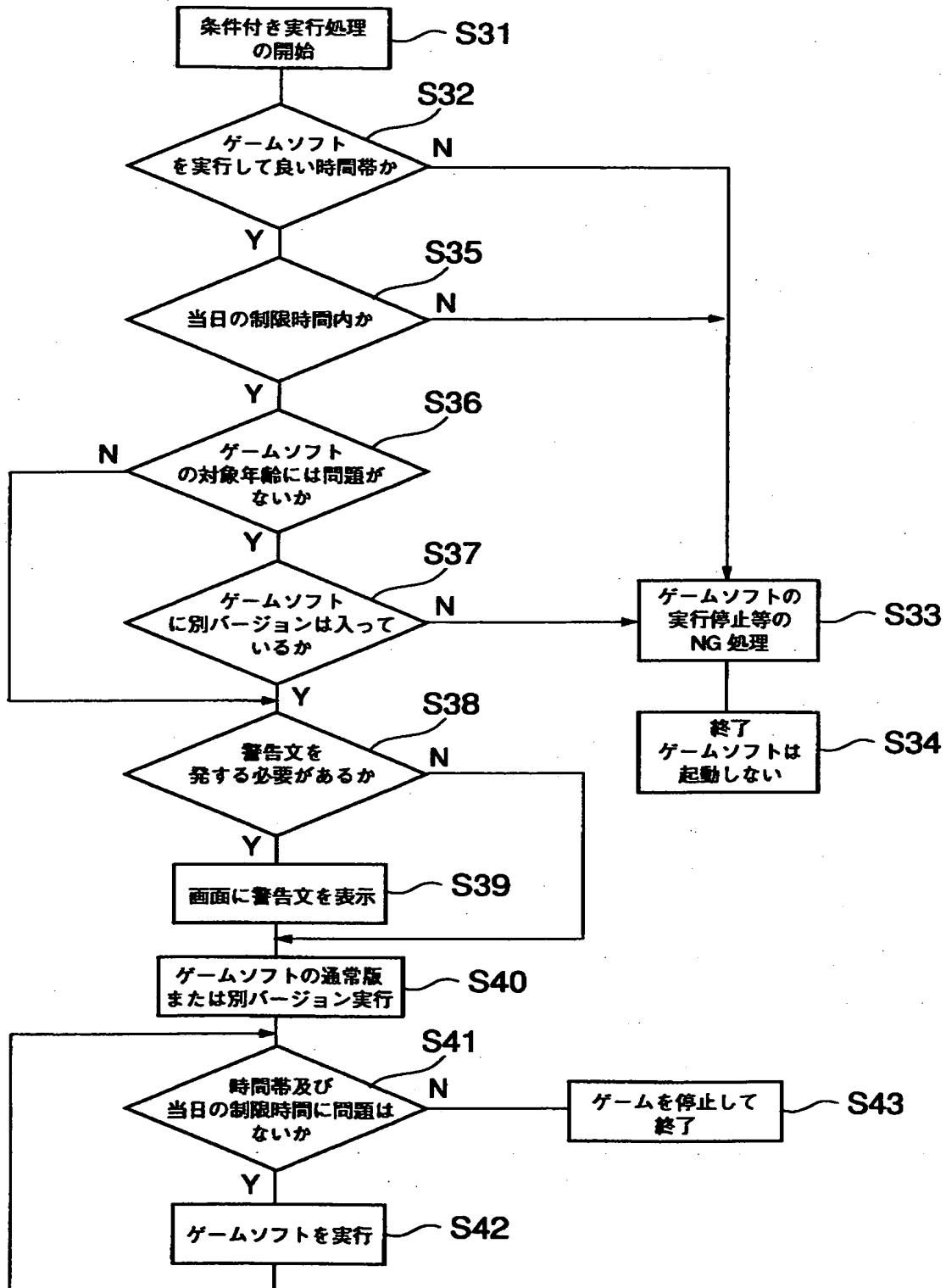
【図2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 利用者に適切なソフトウェアのみを実行させることのできるソフトウェアの実行判別機能付きコンピュータ装置を提供する。

【解決手段】 例えばゲーム機 1 において、ゲームソフトを実行しようとするとき、ソフトウェア実行判別器 5 をゲーム機 1 に装着する。ソフトウェア実行判別器 5 には、利用者の生年月日、ゲームソフトの使用制限時間、連続使用制限時間、使用禁止時間帯、利用者の精神的成熟度などが設定されていて、ゲーム機 1 は、ソフトウェア実行判別器 5 に記録されている設定情報に基づいて、ゲームソフトを実行して良いか否かを判断し、良い場合にのみゲームソフトを実行する。

【選択図】 図 2

【書類名】 出願人名義変更届
【あて先】 特許庁長官殿
【事件の表示】
 【出願番号】 平成11年特許願第160830号
【承継人】
 【識別番号】 500058589
 【氏名又は名称】 株式会社パンサーソフトウェア
【承継人代理人】
 【識別番号】 100095371
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 上村 輝之
【承継人代理人】
 【識別番号】 100089277
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 宮川 長夫
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 043557
 【納付金額】 4,600円
【プルーフの要否】 要

認定・付加情報

特許出願の番号	平成11年 特許願 第160830号
受付番号	50000277620
書類名	出願人名義変更届
担当官	塩崎 博子 1606
作成日	平成12年 7月13日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成12年 3月 9日

【承継人】

【識別番号】 500058589

【住所又は居所】 東京都港区芝浦 2-17-13

【氏名又は名称】 株式会社パンサーソフトウェア

【承継人代理人】 申請人

【識別番号】 100095371

【住所又は居所】 東京都墨田区江東橋1丁目8番3-702号 ウ
イルフォート国際特許事務所

【氏名又は名称】 上村 輝之

【承継人代理人】

【識別番号】 100089277

【住所又は居所】 東京都墨田区江東橋1丁目8番3-702号 ウ
イルフォート国際特許事務所

【氏名又は名称】 宮川 長夫

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [599079366]

1. 変更年月日 1999年 6月 8日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都品川区上大崎3-10-59 パレロワイヤル目黒10
1号

氏 名 佐藤 健次

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500058589]

1. 変更年月日 2000年 2月10日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都港区芝浦2-17-13
氏 名 株式会社バンサーソフトウェア